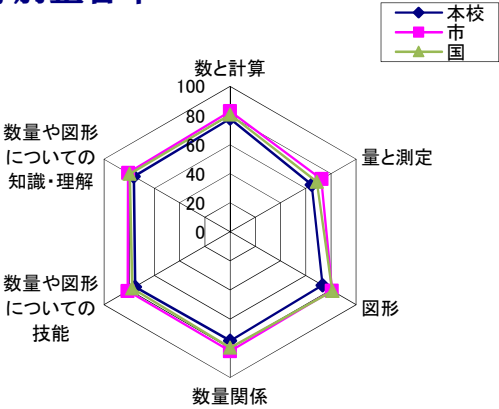


宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

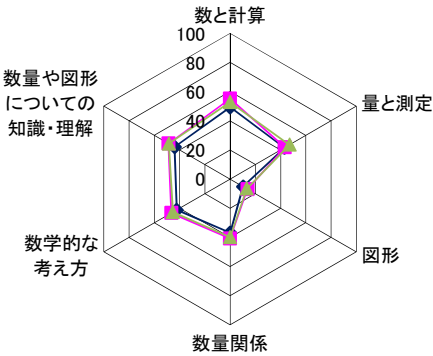
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	77.8	82.9	80.6
	量と測定	64.7	72.5	68.8
	図形	73.3	80.8	81.1
	数量関係	74.8	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	75.4	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.4	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.3	55.1	52.8
	量と測定	43.1	43.4	47.0
	図形	10.3	13.8	13.2
	数量関係	36.9	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.3	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	44.0	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	算数A、Bともに全国の平均正答率を下回った。 ○整数や小数の乗法の計算問題では、ほとんどの児童が正しく選択でき、県平均より上回った。 ●加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率は、県平均より25ポイント以上と大きく下回った。 ●示された条件を基に、適切な式を立てる問題の正答率は、県平均を7ポイント下回った。	・整数や小数のみの基本的な乗法の計算の選択問題には、ほとんどの児童が正答できている。一方、実際に計算して答えを記述する問題には、県平均を大きく下回っているため、四則計算の決まりを復習し、理解を確実にさせていきたい。 ・小数と整数のかけ算や小数同士のかけ算を正確に計算できるよう、ドリルなどで反復練習を進めていく。 ・教科書の文章題を解いた後、文章題をアレンジしたものを用いて指導し、立式や数字の表す意味を定着させる。
量と測定	算数A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ問題の正答率は、県平均を上回った。 ●示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を選ぶ問題の正答率は、県平均を大きく下回った。 ●仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題の正答率は、県平均を大きく下回り、正答率は半分にも満たなかった。	・式について自分で説明する活動を増やす。 ・自分で考えたことを、主語を明確にして式や言葉で表す活動を増やし、友達との情報交換などで多くの表現を学び合う。 ・教科書の文章題を解いた後、文章題をアレンジしたものを用いて指導し、立式や数字の表す意味を定着させる。 ・面積を求めるために必要な部分の長さをすべて与えて公式を用いるだけでなく、面積を求めるためにはどの長さを測る必要があるかについて考える問題にも取り組ませていく。 ・平均の学習を復習し、ドリルなどで仮の平均のとりえ方の問題の習熟を図る。
図形	算数A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ●円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題の正答率は、県平均を17ポイント下回った。	・正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できていることを実際に補助線を利用して確認する活動を取り入れ、復習する。さらに、正多面体についてのまとめを再度押さえ、応用問題への定着を図る。 ・新たな学習内容では、過去に学習してきた内容を具体物を用いて振り返り、素地的体験と知識を結び付けながら、指導に当たる。
数量関係	算数A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ○資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める問題の正答率は、県平均を上回った。 ○示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るか選ぶ問題の正答率は、県平均を上回った。 ●割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率は、県平均を大きく下回った。 ●示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を選ぶ問題の正答率は、県平均を下回った。	・問題場面を的確に捉え、式に表すことができるようにさせたい。そのために、簡単な場合で考えたり、自分なりの図を書くことによって読み取ったりする力を身につけさせたい。 ・日常生活の様々な場面で、割合は用いられている。その意味を理解させるために、基準量と比較量、割合の関係を正しくとらえさせるようにする。特に、基準量は何かをはっきり意識させるようにし、図や式と関連付けて理解を深めるよう進めていきたい。